

ふれあい歴史体験講座

実施日と内容	7月14日(土) 縄文かご編み(午前のみ)
	7月28日(土) 土笛作り
	8月11日(土) 勾玉作り(午前のみ)
	8月25日(土) 粘土はにわ作り
	9月 8日(土) 勾玉作り
	9月22日(土) 管玉・丸玉作り
	10月13日(土) 火起こしと古代パン焼き

時間 9時30分～/14時～(各回約2時間)

参加費 縄文かご編み 1個 300円/土笛 1個 50円
粘土はにわ 1個 210円/勾玉 1個 190円
管玉・丸玉 5個セット 250円
3個セット 190円
火起こし 無料

定員 各回70名(先着順)

申し込み 電話でお申し込みください。
7月分は受付中。8月分以降の受付開始日は市報などでお知らせします。

勾玉作り教室

実施日 7月24日(火)～26日(木)

受付時間 9時～11時/13時～15時
※時間内に随時受付します。

参加費 勾玉 1個 190円

申し込み 事前の申し込みは不要です。受付時間内にお越しください。ただし、お待ちいただく場合があります。あらかじめ、ご了承ください。

夏休みジュニア歴史講座

期間 8月1日(水)・2日(木)

時間 13時30分～16時

対象 小・中学生(2日間とも参加できる人)

内容 火起こし体験や勾玉作りなどの歴史体験

参加費 250円 定員 50名(多数の場合は抽選)

申し込み 往復はがきに、住所・氏名・学年・保護者名・電話番号・講座名を明記し、7月17日(当日消印有効)までに歴史資料館へお申し込みください。

利用案内

■開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)

■休館日 第1月曜日の翌火曜日と第2～5月曜日(祝日の場合は開館)
祝日の翌日(土・日曜の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月4日)

■観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)

※団体は20名以上、中学生以下は無料

※特別展開催中は別料金となる場合があります。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。受付で手帳を提示してください。

■住所 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL097-549-0880

■交通機関 JR大分線 豊後国分駅下車
大分バス 国分新町ゆき 歴史資料館入口下車
大分自動車道 大分I.C.、光吉I.C.ともに約15分

子ども1日学芸員

日時 8月22日(水) 9時30分～16時

内容 資料の整理やさまざまな催しの準備など、資料館のしごとを体験します。

対象 小学5・6年生、中学・高校生

参加費 無料 定員 30名(先着順)

申し込み 8月8日より電話でお申し込みください。

テーマ展解説講座

内容 講座室でテーマ展「おおいたの漁具」についてスライドなどで解説したのち、展示室をご案内します。

日時 7月29日(日) 14時～15時30分

講師 歴史資料館職員

参加費 展示をご覧になる場合は観覧料が必要です。

ミュージアム・シアター

実施日 7月29日(日) ムツゴロウの詩
まんが日本昔ばなし「わらしべ長者」
「田植地蔵」

8月26日(日) 縄文時代
まんが日本昔ばなし「浦島太郎」
「絵姿女房」

9月23日(日) 信長・秀吉・家康
まんが日本昔ばなし「一休さん」
「髪長姫」

時間 13時～14時

料金 無料 申し込み 不要

「自分史・家族史コーナー」展示品募集

歴史資料館では、市民のみなさんからご自身やご家族の歴史を語る写真や思い出の品、家に伝わる家宝などを募集し、展示する「自分史・家族史コーナー」を開設します。

展示できる品々をお持ちの方は、次の要領でご応募ください。

■募集内容 「自分史」をまとめた原稿、手記や日記、写真アルバム、愛用品や家族の思い出の品、家庭に保管されてきた家宝や家伝品など、自分史や家族史を物語る資料で、大分市に関するもの。点数は問いません。

■応募期間 平成19年8月1日(水)～8月31日(金)

■応募方法 電話で歴史資料館へお申し込みください。

■選定 受付後、まず、資料館が応募された資料やそれらにまつわる情報を調査した上で、展示の可否を検討し、応募者に通知します。

■展示期間 平成20年3月から1年以内です。ただし、展示採用者数や採用者のご希望により調整することがあります。

■費用 応募は無料。展示にかかる費用も無料です。

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol.
80
2007.7.7



大分市歴史資料館 テーマ展示Ⅱ

おおいたの漁具

7月7日(土)～10月14日(日)

オキバコ(一本釣り用の道具箱)

発行日：平成19年7月7日

発行：大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 ☎097-549-0880

※ホームページ <http://www.city.oita.oita.jp/>(大分市ホームページ)の「施設ガイド」も併せてご覧ください。

おおいたの漁具

会期:平成19年7月7日(土)～10月14日(日)

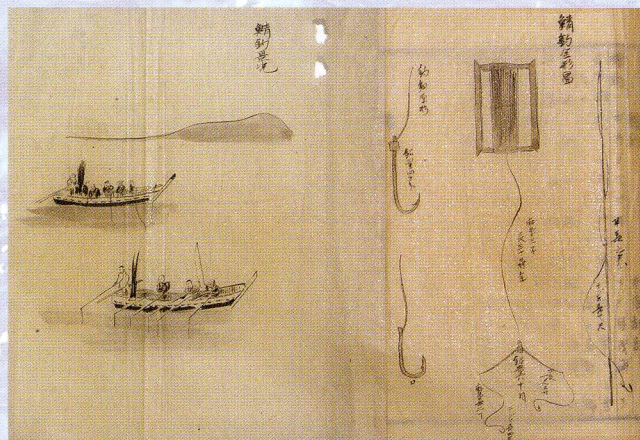
大分の海岸線は変化に富んでおり、さまざまな魚たちが住んでいます。そのため、それぞれの地域で、地形や魚の種類に合わせた漁法が生み出されました。

豊後水道を臨む佐賀関地区は古くから海上交通の要衝であり、漁業の中心地として栄えてきました。今回のテーマ展では、佐賀関地区の特徴的な漁法である一本釣り漁、海士による潜水漁、建網漁で使われてきた道具を中心に、明治時代の記録と合わせ、伝統的な漁法と漁具を紹介します。海に生きてきた人びとの知恵と技をご覧ください。

記録された漁法―「大分県漁業誌」

明治16年に大分県内の漁業を調査し、編さんされた「大分県水産誌」に訂正を加え、明治23年に作られました。

県内の南海部郡・北海部郡・大分郡・速見郡・東国東郡・西国東郡・宇佐郡の7つの地域で使われていた漁具や漁法を解説し、図を加えています。現在も行われている漁法や漁具も数多く紹介されており、伝統的な漁法が今なお受け継がれていることがわかります。

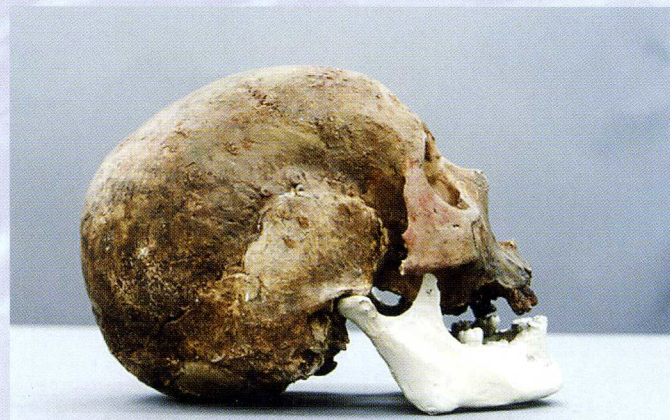


南海部郡でのサバの一本釣りとその道具

考古学からみた大分の漁労

縄文時代以前の人びとが魚を獲っていたのか、遺跡や遺物が発見されておらず、はっきりしていません。縄文時代になると貝塚が出土し、弥生時代の遺跡からは釣り針や網につけるオモリなどが見つかり、魚や貝を獲っていたことが明らかです。

古墳時代になると、大分市内の大在・坂ノ市地区から佐賀関地区を経て県南部に至る一帯では、優れた航海術を持った海の民が瀬戸内海を縦横に駆け巡り、大陸に進出しようとしていた大和政権と密接な関係を結びながら繁栄を誇っていました。この地域では4世紀後半から5世紀末にかけて、多くの古墳が作られ、海や漁労にまつわる遺物が出土しています。



外耳道骨種をもった人骨(複製)

臼杵市にある白塚古墳の石棺に埋葬された人の頭蓋骨。左右両側の外耳道片側の骨にふくれて盛り上がった跡(外耳道骨種)がある。これは潜水作業などで冷水の刺激を受けたためである。

埋葬された男女各2体のうち、男性より女性の方が骨種が大きいことから、潜水作業に携わっていた先祖から遺伝的に受け継いだものと考えられる説もある。

海部古墳資料館

佐賀関の漁業

佐賀関地区は豊後水道北部に位置し、リアス式海岸と天然礁に囲まれた好漁場をかかえ、大分県を代表する漁業基地として栄えています。

現在の佐賀関を代表する漁法は一本釣りです。関の一本釣りは釣り魚の中で最も古い形態ですが、仕掛けは非常にシンプルで、今もほとんど変わっていません。魚の豊富な佐賀関では、仕掛けなどの工夫なしでも多くの魚が獲れるため、古くからの手法が残されてきたといわれています。

海士漁も古い歴史を持つといわれ、佐賀関には古代から海士たちが活躍していた様子をうかがわせる伝説が残されています。潮の流れの速い佐賀関は、海士漁には不向きのように思われますが、貝や海藻の生息に適した瀬や磯がたくさんあるため、海士たちは流れの緩やかな瀬を利用して漁を続けてきました。

これは建網漁にも同じことがいえます。佐賀関の海は、網が潮に流されるため網漁に向いていません。そこで、網を浅瀬に立てるオカダテが発達しました。海士漁も建網漁も、佐賀関の海に適した形をとり発展してきたのです。



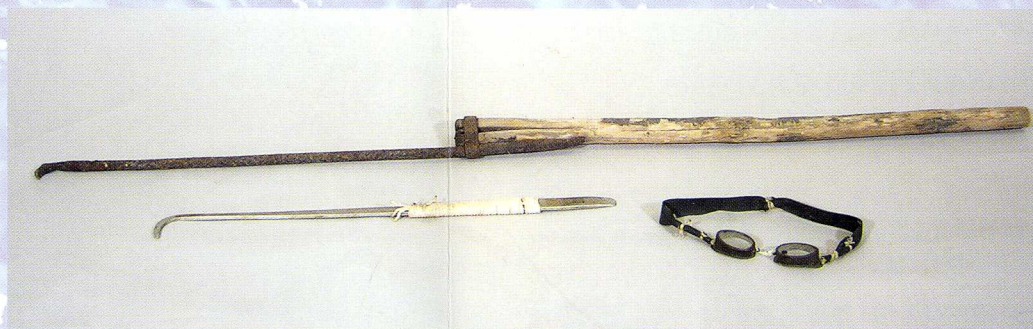
オキバコ(表紙の写真)

一本釣り用の釣り針や糸、ふんどうなどを船に積み込むための道具箱。一度漁に出ると、道具を取りに戻ることができないため、オキバコには予備の漁具を入れた。現在は船に道具を入れるスペースがあるため、用いられることは少なくなっている。



カセ

一本釣り漁で使う糸やビシ(糸に鉛製のおもりをつけたもの)を巻き束ねたもの。魚の種類によって糸や釣り針、ビシが異なるため、どの魚種にも対応できるように、何種類ものカセとその予備を船に積み込む。



海士漁の道具

海士漁では、獲物によって道具を使い分ける。

上の2点はアワビを獲るための道具で、「アワビオコシ」と呼ばれる。上が鉄製で、下はステンレス製。カギ手の部分をアワビの殻に引っ掛けて獲る。ステンレス製には長さの異なるものが数種類あり、アワビの大きさや岩場の様子によって使い分ける。

潜水の際に使う水中眼鏡は、かつてのハコメガネから写真右下に見える二眼の水中眼鏡となり、現在は一眼の水中眼鏡へと変化している。

トピックス

こどもの日、昔のおもちゃで遊ぼう

5月5日のこどもの日に、初めての試みとして「昔のおもちゃで遊ぼう」と題したイベントを行いました。

物が乏しかった昔、子どもたちは遊び道具のほとんどを自分たちで作り、自分たちでルールを決めるなど工夫しながら遊んでいました。

今回は資料館が準備した竹弓矢や水鉄砲、割り箸飛行機、竹馬、竹とんぼ、お手玉など20種類以上の手作りおもちゃを4つのコーナーに分け、参加者はスタンプカードを持って各コーナーを自由に回って遊べるようにしました。また、持ち帰り用に、風車や折り紙風船なども用意しました。

当初は資料館隣の国指定史跡豊後国分寺跡の広い史跡公園で、思いっきり遊んでもらう予定でしたが、あいにくの雨となり、館内での開催となりました。それにもかかわらず、250名以上の家族連れや子どもたちに参加していただきました。的に当たった数を競い合うおじいちゃんとお孫さん。お父さんやお母さんに遊び方を教えてもらう子どもたち。館内のあちこちで、そんなほほえましい光景を見ることができ、絶えず歓声が響く賑やかな一日となりました。

来年も、こどもの日に開催する予定です。ぜひ、お越しください。

